

# 学生研修員への応用行動分析学に基づいた 行動支援技法のトレーニング

下山真衣・岡田信吾（教育心理学科）

## An Evaluation of Student Staff Training in Behavioral Techniques Based on Applied Behavior Analysis

Mae SHIMOYAMA and Shingo OKADA (Department of Educational Psychology)

### 抄 録

本研究では、就実大学心理教育相談室の学生研修員を対象に実施した行動支援技法のトレーニングについて検討をおこなった。発達障害のある子どもへの支援技法として、応用行動分析学に基づいた技法を学生研修員に対してトレーニングした。トレーニングでは、実際に子どもと関わる中で、基本的な支援技法を学べるように構成した。技法に関する学生の主観的な評価においては、全般的にトレーニング開始当初よりも評価は向上していた。今後の課題として、子どもに必要な支援の目標を立てるため知識や経験、技法の習得が促進されるためには、継続的な行動支援技法のトレーニングが必要であることが挙げられる。

キーワード：発達障害，指導計画の立案，特別支援教育

### I はじめに

発達障害のある子どもへの支援の必要性について、この十年間でより広く知られるようになった。支援の理念や支援技法については、多くの書籍が発売され、発達障害理解のための講座が設けられており、知識獲得を中心に学習ができる。しかし一方で、実際に支援技法を体系的に獲得する機会は、それほど多くないのが実情である。

本学では、地域に開かれた心理相談室として就実大学心理教育相談室を擁している。相談室では、学生は学生研修員として相談に来ている障害のある子どもや親に直接かかわっている。学生にとっては、大学の授業で学んだ知識を基に実際に子どもとかわり、修練する場である。学生研修員にとって相談室での活動は、支援技法を体系的に習得する機会である。

学生にトレーニングする体系的な支援技法の内容は、応用行動分析学 (Applied Behavior Analysis; 以下 ABA と記す) に基づく行動支援技法を採用した。ABA は、心理学の中でも学習心理学の分野にて発展した行動分析学の原理を応用したものである (吉野, 2011)。発達障害のある子どもの支援の領域では、コミュニケーションやソーシャルスキル支援で